文化情報誌

たわわ

2017 No. 101

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。

身近なところで楽しく聴く、

はるか昔から続く音楽

リコーダー奏者　細岡ゆきさん

リコーダーとの出会いは小学校三年生の頃でした。
私は北海道出身で、実は北海道ってリコーダーが盛んな土地なんです。
現在、メーカーの依頼を受けて小学校三年生にリコーダーの吹き方を教えるリコーダー講習会などを行ったりもしますが、それと同じようなことは私が子どもの頃からあったようです。北海道はとても広く講師が全てを回りきれないということもあり、学校の先生が一堂に会するところで奏者がリコーダーを教え、そこで習い、リコーダーを好きになった先生が子どもに教えたと聞いています。リコーダーの楽しさを知った先生が子ども達に伝えるので子ども達も楽しさを知ります。そんな循環があって、リコーダーが盛んだったようです。
そんな中、私が通っていた小学校にはリコーダー部があり、同学年だけではなく上級生や後輩たちとアンサンブルをさせてもらっていました。学校の部活のみならずもっとリコーダーを学びたいと思っていたら、同級生が通っているピアノ教室の先生の旦那様がとある高校のリコーダー部の顧問の先生で、その方が教えてくれることになりました。

中世、ルネサンスタイプのリコーダーとゲムスホルン

その先生のレッスンが私と古楽の出会いです。
当時は、古楽とは知らずにルネサンスやバロック時代の曲を演奏させてもらっていたのですが、知らず知らずのうちに古い時代の音楽が好きになっていたのですね。環境を与えられていつの間にか古楽に親しんでいました。
古楽は現代のクラシックと違ってマイナーなものも多いのですが、知らなくても美しかったりドラマチックだったり、耳に残る旋律が多いのではないかと思います。作曲の方法が現代と違うこともあり、響きが独特のものがあったりして、魅力的な曲は多いです。
一般的にバッハが亡くなった年までがバロックと呼ばれます。それ以降が（前古典派や古典派、ロマン派、近現代、現代などの）いわゆるクラシック音楽と呼ばれ、モーツァルトやベートーベン、ショパンなどの作曲家が現れて現在に至るまで約２７０年ぐらいでしょうか。
古楽はその前全てを指すので、おおよそ千年ぐらいの歴史があります。この長い時間の中で生み出された数多くの曲の中からテーマを決め、選曲し、演奏会のプログラムを組み立てるので、案外大変です。

八幡山の洋館での子供向け公演の一幕

平塚に住むようになってから、八幡山の洋館で毎年コンサートをさせて頂いていますが、そこでは子ども向けと大人向けと二つのプログラムを作ります。プログラミングの順番としては、まずは大人向けのコンセプトを決めてから、子ども向けのものを考えています。
子ども向けには「知らなくても、良い曲だよ、面白いよ」という曲を入れたいですね。こういう曲を聴いたことがあるな、と大人になってから思い出してもらえるだけでもいいです。「古楽」と思って触れていなくても、小さい時から触れていると耳馴染みがあったり楽しい思い出になっていたりして、大人になってからまた触れてくれたりコンサートに行きたいと思ってもらえればいいなと 。
音楽を聴く環境に慣れていくということも大事だと思っていて、その手助けになっていれば嬉しいですね。
八幡山の洋館で行っているのは、ドラマで出てきたユニットからお名前を拝借したＧＭＴという名称の古楽アンサンブルです。その時のプログラムで、若干、使用楽器が変わる事もありますが、大体、チェンバロ、ヴィオラ・ダ・ガンバそしてリコーダーと歌が入ります。

ＧＭＴメンバー

そこには「地元を大事にしよう」というコンセプトがあります。都内ではたくさんのコンサートが行われていますが、ちょっと離れているとそこまで出かけなくてはならないのが少し億劫だったりするのではないか、もっと身近に音楽があれば気軽に音楽を楽しいと思ってもらえるのではないかと思っています。
平塚には素敵な良い美術館もあり、総合公園もある。とても文化的なところだと思っています。八幡山の洋館のコンサートに来ていただくときは、いつも他のイベントも紹介するようにしています。例えば美術館の企画展をご案内して、演奏会と共に美術館にも寄ってもらったりしながら、洋館や美術館周辺を一日楽しんでもらえればと思っています。
身近にこんなに素敵な場所や楽しめるところがあると知ってほしい。そして、音楽が身近に有ることがきっかけで、他のコンサートへも足を運んでみようかと思ってもらえるような、拡がりのある演奏会ができればいいと思っています。

【プロフィール】

細岡ゆき
上野学園大学音楽部器楽学科リコーダー専攻卒業。
リコーダーを山岡重治、濱田芳通各氏に師事。
中世、ルネサンス、初期バロックの演奏解釈と声楽を濱田芳通氏に師事。
NHKBSプレミアムクラシック倶楽部、ＮＨＫ教育ＴＶ等にも出演。アントネッロ・リコーダーコンソート、リコーダーアンサンブル・ステラ、メンバー。ＮＨＫ文化センター町田校、東京リコーダー協会講師。 厚木リコーダーオーケストラ、リコーダーオーケストラRicco Suono指導、指揮。
２０１７年は７月２２日に八幡山の洋館でのコンサートを予定している。

ひらつかの文化財を知ろう⑫

文化財を撮る

文化財保護の仕事の中には、文化財そのものを大切に保護・継承していくことのほか、文化財の記録を作成することも含まれます。

昨年の熊本地震では、熊本城の石垣が地震で崩壊した様子が繰り返しニュースで流れました。今後、崩壊した石垣の修復作業が始まりますが、その時に活用されるのが、地震前に作成された図面や写真といった記録類です。崩れた石垣の石一つひとつについて、その形の特徴を以前に作成された記録類と比較照合して、元あった場所を割り出し、その場所に戻すという気の遠くなるような作業が待ち構えています。

また平成27年には、奈良の法隆寺金堂壁画を撮影した写真原版が、国の重要文化財に指定されました。法隆寺の金堂壁画は昭和24年の火災で焼損してしまい、現在では往時の姿をしのぶ手がかりは、昭和10年に撮影されたこの写真原版だけとなってしまいました。法隆寺の例は火災という不幸な出来事をきっかけとしたものですが、文化財を撮影した写真もまた将来、文化財となる可能性を秘めた貴重なモノなのです。

下にある左の写真は、平塚市内の遺跡から出土した木片です。出土の際、表面に墨の痕跡があったので赤外線撮影を行いましたが、何が書かれているか判然としませんでした。しかし表面をよく観察すると、馬の絵が描かれているようです。そこで表面の凹凸を強調し、この木片が「絵馬」であると分かるように撮影したものが右の写真です。

文化財の写真は、撮影対象の文化財を美しく撮ることはもちろん、その文化財が「何なのか」に始まり、作られた年代や制作技法などの特徴を余すことなく精緻に記録することに努めなければなりません。そのため、撮影には撮影技術にも増して、撮影対象の文化財に対する深い知識と理解が必要とされるのです。

普通に撮影した木片（大きさ 縦5.8cm横11.3cm）

表面の凹凸を強調して撮影した「絵馬」

（真田・北金目遺跡群入谷戸遺跡の溝から出土。中・近世）

リトアニアだより（1）

リトアニアでは毎年6月24日に夏至祭（聖ヨハネの日）が祝われます。私たちの祖先がずっと昔から続けてきた、盛大なお祭りです。

リトアニアがまだ自然崇拝で多くの神を信仰していた時代、この祭りの目的は自然を讃え、故人をよみがえらせることでした。14世紀にキリスト教信仰が根付いてからは、美しい丘の上や川辺に集い、ヨナス（男性の名）、ヤネ、ヤニナ（女性の名）など聖ヨハネにちなんだ名前が付けられた人々のことも豪華な宴で祝うようになりました。

夏至祭は皆が大好きな夏の一大イベントです。

丘の上や川辺で、燃え盛る大きなかがり火が焚かれます。

人々は民族衣装に身を包み、花冠を頭に着け、夜明けまで歌い踊って過ごします。未婚のカップルは腕を組んで、残り火を跳び越えます。もしも腕を組んだまま、楽々と跳び越えることができれば、そのカップルは翌年結婚すると言われています。さらに、煙で涙が出ることも、靴や服を汚すこともなければ、愛と幸福に満ち溢れ、すべてがうまくいくというしるしです。もしも煙で涙が出てしまったら、大変な困難を迎えてしまいます。

かがり火に集う人々

夏至祭の夜には、魔法のシダに花が咲くとも信じられています。見つけた人は世界中の、そして鳥たちや動物の言葉もわかるようになると言われる、奇跡の赤い花です。少女たちは夜明け頃、かぶっていた花冠を川に浮かべ、結婚できるかどうかを占います。冠がずっと浮いて流れてゆけば、真実の愛を見つけることができるのです。

歌い踊って過ごす様子

花冠を被る女性たち

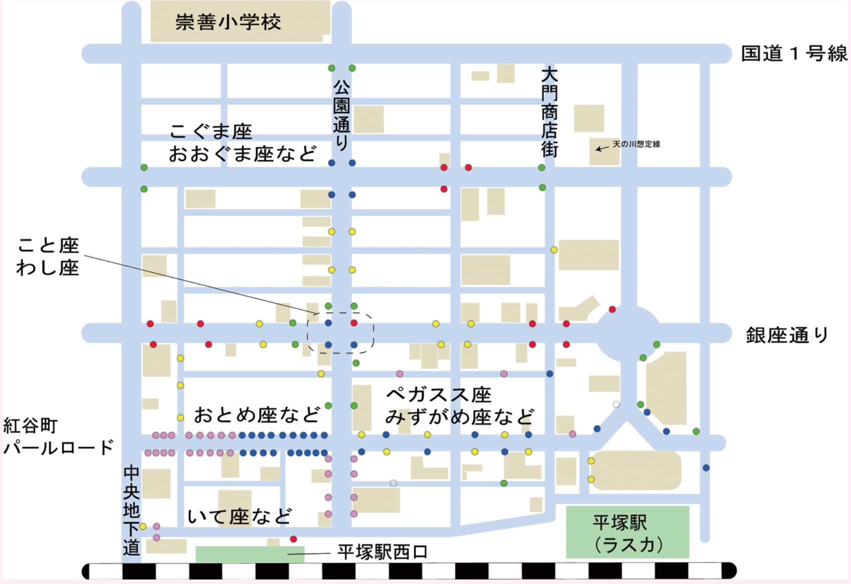
夏至祭は皆が心から楽しむお祭りです。ぜひ平塚市の皆さんもリトアニアにおいでいただき、美しい世界遺産、自然やスポーツ、そして夏至祭を私達と一緒に楽しんでみてはいかがでしょうか。

文・ガリナ・メイルーニエネ駐日リトアニア大使夫人

足もとの星座たち　第１回

皆さんは駅前の商店街、たとえば紅谷町パールロードや湘南スターモールの足元に、平塚の名物・湘南ひらつか七夕まつりにちなんだ星座の絵タイルがあるのをご存知でしょうか？　それらの星座絵タイルは、「平塚市中心街まちづくり計画」にもとづいて今からおよそ30年前の昭和60年から順々に設置されたものです。工事などによって一時的に撤去されていたり壊れて外されてしまったりしたものもありますが、全部で24の星座が絵タイルになっています。

星座絵配置マップ



2015年2月調査、2015年10月作成。博物館で活動していた「星まつりを調べる会」が調査を担当した。色丸が星座絵タイルがある場所を示している。

まちかど広場の近くにある七夕の2星座、こと座とわし座の星座絵タイル

星座絵タイルは、七夕の夜の星空を再現しています。時刻はおりひめ星（織女星：こと座のベガ）とひこ星（牽牛星：わし座のアルタイル）が空高く昇る、７月７日の深夜。湘南ひらつか七夕祭りの会場の真ん中にほど近い、まちかど広場の前の交差点にこと座とわし座の絵タイルを置き（そこから南北に伸びる公園通りにもこと座とわし座のタイルが置かれています）、その東側にペガスス座やみずがめ座といった秋の星座が、南側にいて座やへびつかい座といった夏の星座が、西側にはおとめ座やうしかい座といった春の星座が配置されています。北には北極星があるこぐま座が置かれています。

今号から始まる新連載「足もとの星座たち」では、平塚駅前の商店街にある星座絵タイルとともに、それらの星座の実際や神話などを紹介していきましょう。これを読んで、実際に星座のタイルを見に行きつつ、本物の夜空を眺めて星座を探してみていただければと思います。

（平塚市博物館学芸員）

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。（0463−32−2235）

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方

（平成29年2月から平成29年5月（敬称略））

◆しんわ本人自治会（H29.3.28）

ブラティスラヴァ世界絵本原画展

ミロコマチコ《オレときいろ》
2015年©mirocomachiko

絵本の50年これまでとこれから

2017年7月8日（土）～8月27日（日）
開館　9:30～17:00（8/5～8/27は18:00まで開館）
休館日　月曜日（ただし7/17は開館。翌火曜日休館）
観覧料金　一般900円、高大生500円
主催　平塚市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
詳しいお問合せ先は…平塚市美術館 0463-35-2111

発行　平塚市文化・交流課　〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内　電話 0463-32-2235　FAX 0463-31-6466
平成29年（2017年）6月15日発行　e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp　ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm

再生紙を使用しています